

第6章 教員・教員組織

中期目標

- (1) 本学の理念・目的を実現し、教育研究を円滑に実施するため、教育研究を担当するに相応しい能力を有するとともに、熱意をもってかつ真摯に教育研究に取り組む教員の配置を図る。
- (2) 教員の資質及び教育力の向上を図るため教員のFD活動を積極的に推進し教員の資質向上のための取組方法や教員組織の改善を図る。
- (3) 教員の研究活動の振興と円滑化を促し、その研究成果の発表を行うため「東京医療保健大学紀要」を毎年度発刊する。
- (4) 教員の資質向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の教育研究活動等の評価を実施し処遇等に反映させる。

中期計画

【15】 「教員組織の編成方針」に基づき、教育研究を円滑に実施するため有効かつ適切な教員配置を図るとともに教員に欠員等が生じた場合には原則公募により募集を行うこととし、採用・昇任等に当たっては教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。

取組状況及び課題等【総務人事部】

教員組織の編成に当たっては、建学の精神及び理念・目的を達成するため「教員組織の編成方針」に基づき「教育研究を担当するに相応しい能力を有するとともに、臨床現場の経験が豊富であり熱意を持ってかつ真摯に教育研究に取り組む教員」を配置することとしており「学部・学科・研究科においては、大学設置基準及び大学院設置基準に定める教員数を措置するとともに、学部・学科・研究科が求める教員像を踏まえ医療系の大学として関係法令に基づき教育課程に相応しい教員組織を適切に編成・整備すること」としております(資料6-1<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0605001.pdf>)。

また、医療系の大学として臨床現場に強い優れたチーム医療人の育成を図ることとしており、実習施設として連携する医療機関の臨床現場等において教育実習・臨床実習の指導等に当たってもらうため、保健・医療・介護等の分野において優れた見識・知識を有するとともに、豊富な臨床経験を有し教育上の能力があると認められる者を、大学経営会議で選考を行い「臨床教授・客員教授」等に任用しております。

具体的な編成においては「教員選考規程」「教員選考基準」に基づき学部・学科・研究科の主要な授業科目について、専任教員の役職バランスや医療系(看護系等)の大学であるため女性比率が高い傾向にあり、また実習が多いため授業負担や年齢構成に配慮した選考を行い適切な配置に努めております。

教員選考の手続きは、教員の採用・昇任等に関する教員選考委員会において、教員選考規程及び教員選考基準に基づき業績等を確認し選考候補者を全学人事委員会(学長を委員長に、学部長、学科長、助産学専攻科長、研究科長、大学経営会議室長、事務局長で構成)に報告し、同委員会は教員選考委員会の選考審査結果を受け、公正・厳正に審議を行った後、大学経営会議に提案しております。なお、教員に欠員が生じた場合は原則公募により

募集を行うこととしております(資料 6-2<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0605002.pdf>、6-3<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0605003.pdf>)。

本学のこのような取組については、大学評価(認証評価)において、本学が定める教員組織の編成方針は『いずれも定めている内容は「求める教員像」であり、教育課程に対する教員組織の編成の考え方を示したものではありません。令和3年度は、昨年度に引き続きCOVID-19 拡大防止策を講じつつも学生の学びを止めることのないよう、各教員が遠隔授業の導入に奮闘している状況下であることから、教員組織の編成方針の見直しについては次年度に向けて検討してまいります。

中期計画

【16】教員のFD活動を積極的に推進する。

- ・FD活動の一環として、毎年度学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。
- ・全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるFD活動の推進を図る。
- ・全学的な実施体制の下に、外部有識者の協力を得てFD活動の取組及び教員組織の適切性について自己点検・評価を行い、その結果を踏まえてFD活動の取組方法や教員組織の改善・充実を図る。またその状況について公表する。
- ・FD活動を通じ、教育の基本である3つの方針を対象としてその在り方及び内容を検討し教育研究活動の改善・充実を図っていく。

取組状況及び課題等【企画部】

本学は、教員の資質向上、ひいては教員組織の改善・向上に資するため全学FD・SD委員会を設置するとともに、学部学科のFD委員会において研修会等を企画し授業内容・方法等の改善・充実及び教員の教育力の向上に努めております。

FD活動に資するため開学当初から毎年度学生による授業評価を実施しており、全学FD・SD委員会にはオブザーバーとして学生代表に参画いただき学生の意見も参考にFD活動に取り組んでおります(資料 6-4<http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0202004.pdf>)。

また、各研究科においては、大学評価(認証評価)において「大学院として固有のFD活動が行われていないため、組織的に取り組み、適切にこれを実施するよう改善が求められる。」との意見を踏まえ、昨年度より研究科FD委員会を組織し、授業内容・方法等の改善・充実及び大学運営に対する意識啓発、学生支援の在り方等に関して活動を展開しております。

学生による全授業科目の授業評価アンケートの結果については、各キャンパスに掲示し学生・院生の閲覧に供するとともに、ウェブサイトにおいて公表しております。

アンケートの実施に当たっては講義・演習科目と実習・実験科目に関しそれぞれの授業形態の特性に応じて毎回評価項目・評価方法の見直しを行い、授業における良い点及び改善されるべき点を抽出できるようにしております。

授業科目に係るアンケート結果は、授業の担当教員に渡し教員はアンケート結果を踏まえて授業において工夫を行っている点や今後授業改善に取り組む点等のコメントペーパーを学科長等に提出します。その上で、学科長等は「授業評価結果に関する考察」を行い、これをまとめて今後の授業への活用方法を示し授業評価の集計結果とともに学内に掲示し

ホームページで公表しております。結果の公表により、授業評価に対する理解・意識啓発、授業内容・方法等の改善・充実がより一層進んでいくと考えております。

(資料 6-5http://www.thcu.ac.jp/about/pdf/disclosure/6/r2_merged.pdf)

さらに、全学的な FD・SD 活動の一環として教育力の向上等に関するテーマに基づき、教職員が一堂に会し発表・意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を平成 20 年度から毎年度実施しており、平成 30 年度からは学生の代表にも参加いただいております。

令和 2 年度の語る会においては、コロナ禍において感染拡大防止のため、昨年度に引き続きオンデマンド(動画配信)による実施とし、参加者がいつでも視聴できるように工夫しております。

テーマは「将来の授業像及び教育実践例について」であり、冒頭、教職員から強い講演要請がある理事長から「大学教育とこれから考えること(第 2 編)」とのタイトルで、テーマに関連する社会の動向を踏まえた大局的な講話がありました。動画視聴後のアンケートをみると、参加した教職員からは、改めて本学の果たすべき使命・役割を認識する機会になったとの声が多くありました。その後、引き続きテーマに沿って、医療保健学部医療情報学科及び東が丘看護学部看護学科の各代表の教員による教育内容・方法等の工夫について発表を行っていただきました。コロナ禍の中、動画配信期間を 2 か月としたこともあり、動画の視聴数は累計 415 回を数えました。これは昨年参加者数を大きく上回り、学部学科・研究科における今後の FD 活動の向上に資するものとなりました(資料 6-6)。

このほか、学部学科・研究科においては、FD 活動の一環として国内外の大学等から講師を招聘し様々なテーマで講演会・研修会を開催しております。

大学院医療保健学研究科では、コロナ禍で大学院講義が ICT に移行したことを受けて、次年度も ICT を活用した講義の継続になる見通しのもと、ICT を活用したより良い講義設計に役立てていただけるよう、受講学生にアンケートを実施し、その結果を教員にフィードバック致しました。

また、東が丘看護学部・大学院看護学研究科は、令和 3 年度において、令和 2 年度に作成した FD マップに基づく実践として、年間 7 回の FD 研修会を開催しました。全回、学内の教職員を講師に招き実施しましたが、このうち、大島研究科長による「研究倫理に関する全 3 回シリーズの研修」は大学院生や立川看護学部の教員も参加対象として、研究職として理解しておく研究倫理に関する基礎から応用までの重要事項を体系的に学ぶことが出来ました。他のテーマは、新任教員向け、FD マップについて、学生理解、地域貢献 等、多岐に渡り、研修終了後には毎回アンケートを集め、理解度合を確認すると同時により良い研修実施のための意向集約を行っています。来年度以降は、外部講師による研修も企画していき、研修のテーマの幅を広げてまいります。

さらに、例年は各教員においても外部機関の開催による FD 研修会・セミナーへの参加や、専門分野の学会への参加・発表等により FD 活動に積極的に取り組んでおりましたが、令和 3 年度は、コロナ禍の影響により、ほとんどの機関がオンライン形式での開催となる中、特に学生の学修を止めさせないよう遠隔授業の在り方等に関する研修会・セミナーに参加することができました。

FD 活動の取組及び教員組織の適切性については、全学自己点検・評価委員会のもとに、各学部学科・研究科等の取組状況について外部評価委員会(令和 2 年度以前はスクリー

委員会)の意見を聴取し、点検・評価及び検証を行い、その結果に基づいて学長が招集する学部長等会議が改善点を審議・決定し、これを受けFD活動の取組方法や教員組織の改善・充実を図っており、その取組状況については「点検・評価報告書」にとりまとめ公表しております。

令和3年度は、コロナ禍の影響により十分な活動はできませんでしたが、次年度は取り組んだ活動の成果を一層改善し、教育の質向上に生かしていくこととしております。

さらに、全学的なFD活動の一環として、学士課程の3つの方針の「学位授与の方針(DP)」、「教育課程編成・実施の方針(GP)」、「入学者受け入れの方針(AP)」の適切性等を検証し、高大接続の関連において求められるものに今後も見直しを実施してまいります。

中期計画

【17】毎年度発刊する「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿を積極的に行うよう奨励する。また研究活動の質の向上を図るとともに紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え学外の有識者に査読を依頼しその評価等を踏まえて投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。

取組状況及び課題等【研究協力部】

本学専任教員の教育研究活動の振興と円滑化を促し、その研究成果発表のため、毎年度1回「東京医療保健大学紀要」を発刊しております。

紀要に掲載する原著論文及び研究報告論文等は、学内で投稿募集を行い、紀要委員会の審査を経た後に掲載しており質の充実を図っております。審査に当たっては、原著論文等の内容によって適任の学外有識者に、テーマの重要性・有用度、研究の新規性、論理の構成等を視点に査読を依頼しており、研究活動の質の向上に努めております。

原著論文等が紀要に掲載され発行されるまでの期間を短縮するため、原著論文等の速報性を重視する観点から、紀要委員会において投稿論文の採否について審査結果が出た後、速やかに採択原著論文等を本学ウェブサイトに掲載しており、令和2年度からはホームページでのWeb公開のみとし、関係機関等へは掲載した旨の案内メールを通知しております。

なお、投稿数については、令和元年度より特に各学部・研究科に積極的な投稿を奨励してきたこともあり、着実に増えております。過去4年間をみると、平成30年度8編、令和元年度24編、令和2年度23編、令和3年度22編と推移しております。

また、大学院医療保健学研究科においても、感染制御学教育研究センターと協働し医療関連感染に関する研究成果等を発表するため、原著論文・短報等を掲載した雑誌を年2回発刊するとともに本学ホームページでも公開しておりましたが、現在はホームページでのWeb公開のみとし関係機関等へは掲載した旨の案内メールを通知しております。

中期計画

【18】教員の教育研究活動等の実績・成果について、教員個々の「教育活動」「研究活動」「学内外活動」の各項目について学長及び各学科長等による全学的な評価システムにおいて評価を実施し処遇等に反映させる。

・教員の授業参観を行って評価を行う等、ピアレビュー(同僚評価)の取組を推進

する。また最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体等が開催するFD関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加(研究発表等を含む。)を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。

- ・評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」「研究活動」「学内外活動」の各項目の業績が、特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。

取組状況及び課題等【総務人事部】

中期目標・計画において、「教育研究の質の向上及び活性化を図るため教員の教育研究活動等の実績・成果を評価し処遇等に反映する仕組みの導入を図る」と定めていることを踏まえ「教員評価規程」を定め、次のとおり当面の措置として、教員の教育研究活動等に係る評価(教員評価)を実施しております。

1) 教員評価実施に当たっての原則的な考え方について

- ・教員評価は、教員の資質の向上と自らの能力開発の一助とすること。
- ・教員評価は、教員の優れた取組を評価するプラス評価を原則とすること。
- ・教員評価のための評価データ(以下「評価データ」という)は教員の自己申告によること。

2) 評価項目について

- ・教育研究活動等の実績・成果を評価する項目を、「教育活動」「研究活動」「学内外活動」の3項目とする。
- ・「教育活動」「研究活動」の評価に当たっては、教育及び研究の質の向上を図るために取り組んだ(取り組んでいる)ことについて重点をおいて評価を行う。
なお、教員相互の資質向上を図るため学部学科において教員の授業参観による評価を行うピアレビュー(同僚評価)を行っており、現在は一部科目の授業公開の実施となっており授業公開の拡大等ピアレビューの活用を推進する。
- ・「学内外活動」の評価においては、全学及び各学科等における各種委員会における活動状況・実績、本学が主催・共催した公開講座における活動状況・実績・成果、学会等における活動状況・実績・成果等について重点をおいて評価を行う。

3) 評価実施方法について

- ・医療系の大学である本学においては医療機関の臨床現場及び医療関連企業等における実習等に重点をおいて、教育課程を編成していること等を勘案し、3項目全体による総合評価ではなく「教育活動」「研究活動」「学内外活動」の各項目による業績評価を行う。
- ・各教員は、毎年5月1日現在で前年度の教育研究活動等に関する具体的な取組内容について「教員評価データ入力(記述)要領」等に基づき、5月末日までに、デスクネットの評価データの様式に入力(記述)する。なお当該年度当初に採用された教員は対象としない。教員は毎年5月1日現在でウェブサイトの教員紹介データ(学位・資格、担当科目、研究テーマ、最近の業績または代表的な業績、専門領域での活動

等)の入力を行っていることから教員紹介データと併せて評価データを入力(記述)する。

- ・評価データの記述に関して説明資料がある場合には別途メール添付等により、総務人事部長に提出する。総務人事部長は説明資料を各学科長・各研究科長(「各学科長等」という)及び学長に送付する。
- ・学部所属教員のうち研究科教員を兼務している教員については学部及び研究科それぞれにおける教育研究活動等について評価データに入力(記述)する。
- ・各学科長等は、総務人事部から付与されるパスワードにより各教員の評価データを開き、6月中旬までに評価データに各評価項目に係る業績の評価を入力(記述)する。
- ・各学科長等に係る評価については、学長が評価結果を入力(記述)する。

4) 処遇等への反映方策について

- ・学長は、各学科長等が入力(記述)した評価結果に基づき、「教育活動」「研究活動」「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対しては、就業規則第44条(表彰)第1号「職務上の功績が顕著であり他の職員の模範となる場合」に基づく「表彰制度」を活用して教員表彰を行っていただくよう理事長に上申する。
- ・理事長は、学長からの上申に基づき教員表彰を行う。
- ・学長は、教員表彰を受賞した教員のうち、業績が特に顕著な教員に対してインセンティブを付与するため、学長裁量経費の中から特別教育研究費を配分する。

なお、このほか、教育内容・方法等の創意工夫を行い、授業の改善を図るとともに教員の教育力の向上に資するため、毎年度実施する「学生による授業評価」の結果に基づき、高評価の教員に対して学長顕彰を実施しております。

このような本学の取組については、大学評価(認証評価)の結果において『このように、単なる業績評価にとどまらず、表彰制度に結び付けて、教員の処遇に反映している点は評価できる。一方で業績評価及び処遇への反映に関する基準について定めはなく「評価データ」も自由度の高い記述式であるため、各学部・研究科等の特性を考慮したうえで、全学的に評価基準を規定・公開し、公正性を担保することが望まれる』との意見を頂いたところですが、令和2年度及び令和3年度はコロナ禍の中において、各教員は学生の学修を止めることないようオンラインを活用した遠隔授業の導入に、試行錯誤しながら取り組んできたこともあり、意見を踏まえ引き続き検討してまいります。

「東京医療保健大学を語る会」実施結果について(令和3年度)

1. 趣旨等

- (1) 「東京医療保健大学を語る会」(以下「語る会」という。)は、平成17年度開学後初の卒業生を送り出す平成20年度から、「本学の教育に係る将来の夢を語ること」を趣旨として実施しております。
- (2) 「語る会」は、各教員の授業内容・方法等の改善を図ることを目的に、また職員にとっては各学科等の取組状況を把握する貴重な機会であることから、教員のFD活動及び事務職員のSD活動の一環として、毎年度1回全教職員が一堂に会して実施してまいりました。
- (3) 令和3年度については、コロナ禍において感染拡大防止のため、昨年度に引き続きオンデマンドによる実施といたしました。
テーマは、「ICTを活用した将来の授業像及び教育実践例について」といたしました。

2. 概況

(1) 日程(オンデマンド配信期間)

令和3年11月1日(月)～12月31日(金)

(2) 方法

オンデマンド配信

(3) 実施状況

- 理事長から『大学教育とこれから考えること(第2編)』と題して講話をいただき、その後、医療保健学部医療情報学科及び東が丘看護学部看護学科教員より『ICTを活用した将来の授業像及び教育実践例について』発表をいただきました。

3. 参加者数

| 区 分 | 令和3年度 (オンデマンド配信) | 令和2年度 (オンデマンド配信) | 令和元年度 |
|------------|---------------------|---------------------|-------|
| 全教職員数 | 344 | 350 | 331 |
| 教 員 | 242 | 249 | 238 |
| 職 員 | 102 | 101 | 93 |
| 視聴数(累計)(※) | 415 | 369 | — |
| アンケート回収数 | 253 | 158 | 142 |
| 教 員 | 186 | 125 | 113 |
| 職 員 | 67 | 33 | 29 |
| アンケート回収率 | 73.5% | 45.1% | 42.9% |
| 教 員 | 76.9% | 50.2% | 47.5% |
| 職 員 | 65.7% | 32.7% | 31.2% |

※視聴数(累計)は、1人が複数回視聴した場合を含む。

【アンケート内訳】

| 区 分 | 教員数 | 回収数 | 回収率 |
|----------------------|---------|-----|-------|
| 医療保健学部 看護学科(助産含む) | 54(28) | 40 | 74.1% |
| 医療栄養学科 | 24(3) | 21 | 87.5% |
| 医療情報学科 | 17(3) | 13 | 76.5% |
| 医療保健学研究科 | 5(専任) | 5 | 100% |
| 東が丘看護学部 看護学研究科 | 41(22) | 23 | 56.1% |
| 立川看護学部 | 28 | 19 | 67.9% |
| 千葉看護学部 | 36(20) | 28 | 77.8% |
| 和歌山看護学部 和歌山看護学研究科 | 37(12) | 37 | 100% |
| 小 計 | 242(88) | 186 | 76.9% |

※教員数の()は大学院兼務教員数。

| 区 分 | 職員数 | 回収数 | 回収率 |
|------------|-----|-----|-------|
| 事務局等 | 102 | 67 | 65.7% |
| その他(学外役員等) | — | — | |
| 小 計 | 102 | 67 | |

| | | | |
|-----|-------|-----|------|
| 合 計 | 全教職員数 | 回収数 | 回収率 |
| | 344 | 253 | 7.5% |

【アンケート結果】

| 大いに参考になった | 参考になった | その他 | 計 |
|------------|------------|-------|-----------|
| 133(52.6%) | 120(47.4%) | 0(0%) | 253(100%) |

(主な記述)

1. 視聴された感想等

- ・ 大学教育が変容するに付け、リベラルアーツが大切だとの理事長のメッセージに感銘を受けた。
- ・ 理事長の講話を通じて、教育に携わる者として基本的人権の重要性を改めて認識した。
- ・ 自調自考の教育の中で、当事者意識が肝要であるという考えに感銘を受けた。自分自身に置き換えて物事を考えるという事がアクティブ・ラーニングの根源であると私も思う。今後教育の現場で至要たる事である。
- ・ 理事長からのリベラルアーツや学問の発展に関するお話が特に印象に残った。また他学部・他学科の先生方からのお話を伺うと、大変刺激になった。
- ・ これからの時代を見据えた理事長の教育に対するお考えに感銘を受けた。当事者意識をもった Agency をはぐくむ教育に取り組んでいこうと思った。
- ・ 講義への ICT 活用の参考となった。
- ・ 自ら考え、主体的に行動して、責任を持って社会変革を実現していく「力」を養うアクティブ・ラーニングを大学教育にて推進すべき背景を認識できました。
- ・ 各教師陣の実践報告を受け、対面・遠隔授業のメリットとデメリットを改めて確認することができました。コロナ明けに向け、対面授業である意味をこれからも考えたいと感じました。
- ・ 理事長講話では、リベラルアーツに関する事が印象に残った。また、各学部でのコロナ禍における ICT を活用した授業や演習、実習の進め方が参考になった。
- ・ 理事長からは、従来の高等教育のあり方、VUCA の時代における今後の高等教育のあり方等について全般的なお話と、本学としては何を根底として、今後どのように発展させるべきかの羅針盤を示してくださいました。
- ・ 理事長からの他者、社会へのまなざしのお話は、今の不自由な生活においてとても大切だと思いました。臨地に近い体験の機会を作ったり、実感を伴う学びを工夫したり、枠組みにとらわれずに考えたいです。
- ・ 将来的なビジョンと先々を予測して信念をもって教育に携わる必要性を再認識いたしました。

- ・ これからの大学教育を幅広い視点から考える機会になりました。本学が進もうとしている方向を、理事長の講話と各先生の具体的取組みから理解できました。
- ・ 今後は ICT を活用した授業運営が不可欠となりますが、その中でいかに対面授業を効果的に進めていくか、が重要になると考えました。これから入学してくる学生の学び方に応じた大学教育の見直しが必要と感じました。
- ・ 人は人とのかかわりによって成長すると思います。微妙な表情やしぐさ、声の大きさなどなど、ロボットやメールでは伝わり方が違うと思います。時代の変化を理解しつつ、自分のできることを考えていこうと思います。
- ・ AI 社会を見据え、学生とともに成長していくことの必要性を認識しました。将来の道は自身で決めさせることの重要性は共感しました。先生方もコロナ禍の教育に創意工夫で乗り切ってこられたご苦労が伝わってきました。
- ・ 理事長の講話はいつも深くて学びが多いと感じています。また、今泉先生と松山先生のお話は授業方法の実際についての情報提供であったので、今後の授業方法の検討の際の参考になります。
- ・ 人とのかかわりが希薄になりがちな今こそ、人文科学の重要性が増すのだと感じました。
- ・ 先生方の対面授業と遠隔授業の両立について、大変なご苦労と工夫が感じられ、とても心強く思いました。
- ・ エージェンシーの力をつけるためには当事者意識を持つ、持つためには基本的人権の考え方、人格的自立権が骨格として重要とのこと。人間力を高めるために何が必要なのかと聞いていたので、指標になりました。
- ・ コロナ禍でも到達目標達成のために様々な工夫し教育されていること大変参考になりました。
- ・ 普段の業務からかけ離れている高尚なお話でした。もっと自己研鑽に努めたいと考えるきっかけになりました。
- ・ コロナ禍での授業が本学ではどのように行われているのかがよく分かった。今までは単にリモート授業やオンデマンド授業をやっているとしか認識がなかったが今回の会でその中身が分かり、勉強になりました。
- ・ コロナ禍での実習や授業について、他学科でどのように取り組まれたか、具体的に知ることができ、大変参考になりました。
- ・ 改めて東京医療保健大学の教職員としての意識を高めていただく機会となった。
- ・ 貴重な講演ありがとうございました。理事長講話の日本人口減、貴重な存在の学生たち、リベラルアーツの考え、人格的自律ができる人材を共に成長していきたいと思っています。
- ・ オンライン授業の功罪、AI が今後の教育に与える影響等様々な見地から分かり易く、今に置き換えご説明頂き、大変興味深いものでした。
- ・ コロナ禍により、急速に ICT を活用した教育が進んだゆえに、ICT ではできないことを明確にしていく必要を再認識しました。AI にはできない職種であり続けるためにも、これからの大学教育を考える機会となりました。

- ・次世代に向けての学習指導方法がどのように展開されているのかがよくわかりました。ライブで視聴できるようにしていただけると尚良いと思います。
- ・先生方ひとりひとりやり方が異なり、実際の体験例を見られることは大変貴重な機会だと思います。
このコロナ渦でどの様に学生のドロップアウトをなくし、質を保っていくのかが課題だと思います。
- ・講話を通して、Society5.0時代に突入した現在、創造性の高い業種や職種に対応できる人材の育成と、「自調自考」の精神を養う教育に移行しなければならない必要性を再認識いたしました。
- ・教育と社会・人類の歴史が深い関係にあることを改めて感じた。コロナ感染が人類の歴史を大きく変え、教育もまた変換の必要があることを再認識した。
- ・アクティブ・ラーニングにおいて学生自身が当事者意識を持つことで学びの効率が上がる。
教え合い、学び合いができる場の提供、キャンパスで行う対面授業の在り方について考えが深まりました。
- ・大学教育の求められることの根本的な考えについて、理解につながる内容であり、教員に求められることを考えなければならぬと感じました。
- ・理事長講話を受けて、令和6年に入学してくる学生たちは新たな学習指導要領下で学んでいくという事実を知り、そこに向けて準備が必要なのだと実感しました。
- ・松山先生が「学生が情報処理が出来ない」と言われていましたが、どれくらいの情報量なのか気になりました。今泉先生の講演で「臨床実習前に体験する」、細かに授業を設計することは、私も日々目標としているところです。
- ・理事長の講演を拝聴して、AI時代の教育について、人間性豊かな創造性ある人材育成の必要性をあらためて実感しました。
- ・理事長のお話は大学のことだけでなく、教育制度のことなど大局的な見地からの話など大変勉強になります。
- ・理事長の貴重な講話を受けることができ、新たな教育を受けた学生と学ぶことになるため、考え方を柔軟にしていく心構えができました。学生にとって本学での学びが有意義なものとなるよう貢献したいです。
- ・今後、どのような教育を受けた学生が入学してくるのか分かりました。18歳人口が減少していく中で生き残るには、社会人入学も広く受け入れるような入試と授業の運営も必要ではないかと考えました。
- ・どちらの学科の事例も拝見した感想としては、学生ごとに教材をパーソナライズすることで多様性、個別性への対応をしてきているが、教員のマンパワーも相当消費することもご承知おきいただきたい。
- ・オンライン授業から対面授業に戻した際に、モチベーションを保てない学生の対策や、オンライン実習の方法についても、大変勉強になりました。
- ・日々進化していく中で、学生と共に、教育職員だけでなく、事務職員も一緒に、進化し、成長していく必要があると強く感じました。

- ・理事長の講話ではAI時代における人間教育の重要性を改めて感じさせられた。先生方の発表では、ICTを活用した授業の具体例により、これまでイメージできなかった部分について理解度が深まった。
- ・対面に戻った時の、学生たちの「移動の価値」という表現を見た時に一番ドキッとしました。自分の今までの方法を根底から考え直す良い機会となった。
- ・理事長講話を聴いて、あらためて教育の重要性を実感しました。他の学科の先生方がコロナ禍でどのような工夫をされて授業に臨まれているか関心がありましたが、お話を聞いて大変参考になりました。
- ・他学部等の教育の現状を知り参考とすることができただけではなく、本来の教育の在り方についても学ぶことができとても参考になりました。
- ・コロナを契機に急速に授業も進化していることがわかりました。学生は当事者意識の醸成が追い付かない様子も多々あります。学習者が何を学ぶのかに注目し、支援していきたいと思いました。
- ・今泉先生の医療情報学科の遠隔授業への取組の学生との向き合い方が、事務職員ではみえない視点で知ることができて興味深かったです。
- ・コロナの影響もあり、教育のありかたも大きく変わってきているなと思いました。また、それにどう対応していくかが学校側に求められていることであり、人気にもつながってくると思いました。
- ・オンライン授業でどのようにして授業の質を保っているか、ということが大変興味深かったです。
- ・いつも理事長のお話は感銘を受けます。一年に一回心が洗われる機会になります。
- ・各学科での取り組みは、いつも経費の精算をするのみでどんなことをしているのかわからなかったのが、少し教育の現場との距離が縮まった気がした。
- ・自調自考の教育方法は、今後も大切にしていきたい。AIがいくら発達したとしても物事を決定していく過程は重要である。大学生活の中で、体験が増えるよう関わっていきたい。
- ・東が丘看護学部の実習のように協力的な臨床施設があると具体的な実習方法を検討できてよいと思った。
- ・AIやロボットによる代替可能性が高い職業、これから来る人口減時代による変化などを知り、今後の人生を考えるきっかけとなりました。
- ・R6年度、新学習指導要項に対応した大学入試改革について、印象的であった。コロナを経験し授業形態も変化し、人口動態も若年層の低下、AI普及で、時代が移り変わる印象をもった。
- ・将来はAIが生活の中に入ってくることを想定し、今後の教育をどうしていくか、講義でICTをどのように活用するかも考えさせられるとても興味深い内容でした。
- ・「アクティブ・ラーニング導入の意義」のところで、講義は5%の影響しかないというのは驚きましたが、考えてみるとよほど印象に残ったことや衝撃的なことしか覚えていないかもしれないとも思いました。

- ・何を学ぶか、どのように学ぶか、その結果何ができるかという言葉がとても気になりました。学生自身が求めている事を自分で切りひらき考えて欲しいと思いました。
- ・理事長のお話をお聴きすると未来への展望も持てますし気持ちが新たになります。
- ・松山先生の現場との連携ありきの実習も、大変参考になりました。
- ・情報学科と看護学科の通信による授業の進め方がとてもよく分かった。また、通信授業の評価についても参考になりました。
理事長の講話の中では、現代の学生に対する教育の必要性を更に深く理解いたしました。
- ・今泉・松山教授の発表は、誰も想定していなかった新型コロナウイルス発生という状況下で、ICT を活用して、試行錯誤や創意工夫を重ね、悩み苦労しながら教育活動を実践されていることがよく伝わりました。
- ・大学における心構えやあり方がとてもためになりました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度から授業形態が対面式からオンライン中心に変更してきていたが、今回の講演を聴き、大学の基盤となる理念を大切にしつつ移行できていたのか振り返る機会となった。
- ・理事長の講話がとても素晴らしいので、何回も見直し、授業等に活用できるようにしていきたいと思いました。ICT 活用についても参考となりました。
- ・これからの大学教育に求められることとして、「修得」を目指すということが印象に残りました。そのための内容や評価方法をしっかり設定する必要があると考えました。
- ・理事長講話では、毎年、大学教員として考え続けなければならないことをご教示いただき、襟を正す機会となります。
また、基礎看護学の代替実習の取り組みが同じ領域を担当する者として参考になりました。
- ・18 歳人口の減少に伴いこれからの大学に求められているものを改めて考えていかなければいけないと思いました。
対面授業だけではできない可能性がアクティブ・ラーニングにはまだまだあるのではないかと思います。
- ・コロナ渦においても、求められる大学を作るべく、大学が目指すべき位置、我々大学職員の目指すべき姿を再認識することができました。
- ・入学してくる学生が求めるものに、大学も対応しなければならない難しさを感じた。
- ・大学教育が社会に貢献していく為に、人文科学分野が行う研究が評価されていくことは、大変意味があると思いました。
- ・リベラルアーツの中の修辞学を学んでこそ、アクティブ・ラーニングの対話に深まりをもたらすのではないかと考えた。
- ・自分が受けてきた教育と異なる教育を受けてきた学生の方々と今後関わることとなります。柔軟な考え方で学生に接し、教育を実践していく重要性を認識することができました。

- ・時代の変化、学修者の変化に対応した教育内容・方法を考え、講義の質を向上させていく必要があると改めて感じた。これらのことを常に意識して学生と向き合っていたい。
- ・理事長講話の With コロナとポストコロナの大学教育については、大変参考になり、いろいろと考えて行く必要があると思った。
- ・教育の変化に合わせ、大学教育も変化が求められていることを改めて考える機会となりました。
- ・コロナ禍での ICT 化に関わり各学科先生方が大変なご尽力をされたかと拝察しますが、振り返りから今後の課題まで整理して共有していただき大変勉強になりました。
- ・基本的人権のためのリベラルアーツ教育の重要性を再認識でき、個人と社会のかかわりが、最後の孔子の言葉に集約されていることに感銘しました。また、コロナ禍の教員のご苦勞に感謝申し上げます。
- ・各学科の具体的な活動内容と理事長の講話から、本学及び教育者としてのビジョンとミッションを共有させていただくことができました。
- ・高大接続、大学の成り立ち、大学の在り方、など大変重要なテーマを深く取り上げていただき、非常に参考になりました。
- ・印象に残った事は、聞いただけでは5%しか記憶に残らないという理事長のお話です。教え合うと90%記憶されるので、仕事でも確認しあいながら取り組みたいと思います。日本の人口減少も、切実な問題だと感じました。
- ・学生の意見などもあり、今後の教授活動の参考になりました。
- ・学生がこれから社会で活躍するためにエージェンシーという要素を育成するためには、アクティブ・ラーニングといったインタラクティブな授業設計を行う必要があり、機械では代用できない業務であることを理解した。
- ・理事長のご講義の中の、人格的自律権とは自分の人生は自分で決める。これは AI では教育できない。というお言葉は日頃学生と向き合う中でとても大切にしなければならぬことだと思いました。
- ・ICT を利用した講義ができたのは、PC 貸与などあらかじめ環境が整えられていたからこそ成しえたと思います。また、今後の入試についてもこうした環境の差が受験者数に出てくると感じました。
- ・コロナ後の大学教育の在り方を考えさせられた。職員のボトムアップも必要なのだろう。
- ・教育について根本的な部分、現在の環境・状況に合わせた教育方法を今回学ぶことができた。学習が定着できるように工夫したいと思った。
- ・理事長の講話は見識が高いものであり、今後の大学教育を考える上で羅針盤となるものと感じました。
- ・理事長の人柄の素晴らしさと、教育への情熱を感じます。
- ・これからの大学における教育について、入学者の学習履歴を踏まえつつ、時代の変化に対応した教育を行う必要性が良く理解できました。
- ・学内の取組状況が全体に共有化されたことはいいことです。(一部の教員しか知らないことが多いため)

- ・大変勉強になりました。理事長はもちろんですが、今泉先生のお話は、テクノロジーに振り回されない教育を考えるためにも重要だと思いました。
- ・これまで実施してきた教育方法から ICT を活用した方法への転換が求められていること、学修評価を細分化して行うことの必要性について理解できた。ルーブリックによる評価について自領域でも利用していきたい。
- ・各キャンパスでそれぞれ工夫した授業、実習を行っており、今後の授業設計において非常に参考になった。また今後入学してくる学生の特性に合わせ、教員も臨機応変に対応にしなければいけないと感じた。
- ・ICT を活用した教育活動について、他学部の取り組みを知ることができ、非常に興味深かった。だが、どう手を尽くしても、やはり生身の患者さんとの関わりには敵わないと思ってしまう。
- ・AI には出来ない、人だからこそ出来る他人事では無く当事者意識を持ち相手と向き合うことの重要性、そしてロボットの思考では無い医療人の育成が今後より求められていくことを再認識出来ました。
- ・理事長の講話では、教育学の観点で過去から遡り今後に向けてご説明くださり、とてもわかりやすく興味深く学ばせていただきました。大学教育のあるべき姿や課題について非常に理解が深まりました。
- ・学習指導要領の変わり、その教育を受けた学生に対する、教員の準備としてどのようなことができるのか考えるきっかけとなった。
- ・理事長講話は大学や大学教育の在り方について考える機会となりました。初等・中等教育で示されている学力の 3 要素を社会人基礎力につなげていくことが大学教育の役割の一つだと思います。
- ・これからの教育という点で、今後どのような教育が必要か、さらに ICT を活用した将来の教育について考える機会となりました。
- ・教育改革への理事長の考えがわかりよかった。ICT 活用教育、オンライン実習は、頷くことばかりでした。ただし、危機的状況だから、教員学生ともに頑張れたところもあり、対面で率直な意見交換を試みたかったです。
- ・理事長のお話を通じて、大学教育に関するお考えを拝聴し参考になった。しかし、理想と現実（入学してくる学生の能力・資質）の乖離を感じ、入学後どの程度引き上げられるのか、悩ましく思った。
- ・同じ看護学科として、東が丘看護学部の遠隔実習の内容は大変参考になりました。
- ・これからどのような教育が求められているのかが理解できた。教員も社会のニーズに応じること、未来に向けて柔軟に対応しながら専門分野を開拓しつつ学生への教育を行っていく必要性を実感できた。
- ・ICT を活用した授業は参考になりました。
遠隔であっても双方向である内容であれば、学生の満足度や達成感が得られると感じました。
- ・Medi-EYE と本当の患者のローデータを使用した実習は病院との連携が必要と思います。学生にとっては実際の状況を学べて良いと思いました。

- ・対面であれば見える学生の進度を遠隔で確認することの難しさを感じています。また ICT の機能を使いこなせていないのを実感しています。
- ・新学習指導要領が施行された初の学生が 2022 年度入学生ということで、次年度の入学生が楽しみです。いろいろ言われてはいますが、専門職教育として伝えるべき内容は変わらないのかなと、楽観的にみえています。
- ・学長講話は毎回大変楽しみにしているとともに、「教育」について原点に戻り考える時間になります。
- ・ICT を活用した代替実習・教育用電子カルテについて、入力情報を精選し過ぎず、学修者が患者の状況から必要な情報を判断できる能力を得られるよう、評価を共有し合い、ICT ツールの知見を拡げていきたいと思いました。
- ・高校生や保護者から来年度は対面授業だけになるかとの質問を受ける事がありますので、先生方のお話は為になりました。オンライン授業への取り組みと課題やメリットなどを知る事が出来ました。
- ・コロナ禍で変遷していく世の中の動きを注視しながら、教育現場に携わるものとして何ができるのかを考え、精進していく必要があると感じました。
- ・自調自考の教育は、極めて重要性を増していると考えています。現代において、知識の獲得のハードルは下がっています。すでに、社会課題の中心は知識の運用に移っており、自調自考の教育は鍵を握っていると考えます。
- ・コロナ禍でのオンライン授業においてはアクティブ・ラーニングの意味が突き付けられました。今回は、自調自考の重要性や”学修者本位の教育”における学修課程と成果の可視化の意義について考えることができました。
- ・ICT を用いた現状の担当科目のメリット・デメリットを改めて整理し、次年度に活かしたいと考えます。学生のモチベーション維持のためにも学習成果の可視化は必要だと思いました。
- ・利他の心を、今将来のある人たちに広められるのでしょうか？
- ・先生方のご講義を視聴し、ICT 授業、あるいは対面授業でそれぞれの授業形態に応じて学生が何を学ぶのか目標設定を検討していくことが必要であると改めて理解することができました。ありがとうございました。
- ・理事長の講話を拝聴すると、現場から一步距離を置いて広い視野で教育について見つめ直すことができます。
- ・これから入学してくる学生たちは従来型ではない学力を身につけてきている点、特に身が引き締まります。今泉先生、松山先生の尽力された講義構築のお話も、大変心に迫ってきました。
- ・世界から見た教育の重要性と大学に求められている点を改めて学ぶことが出来ました。DX のスキルアップは日々の教育の中でどれほどできるのか悩ましい点もありますが、教育の質向上に向けて頑張っていきたいです。
- ・人類の歴史という文脈で、学問の発展と次世代への継承という大学の役割を再認識し、改めて身が引き締まる思いです。
- ・代替実習の実態が、分かりやすく説明されていた。大変勉強になりました。
- ・タイムリーなトピックが選ばれており、最後まで興味深く見入ってしまいました。

- ・ AI の進化によって、この先の仕事の仕方や大学教育の在り方の変化についての考察を楽しく聞かせていただきました。看護の分野においても技術的なことや知識よりもそれを使うことが重要になると思いました。
- ・ 今後の看護教育を改めて考え直す機会となりました。ありがとうございました。
- ・ 大学教育とは何か時代がさらなる情報社会に変化する中で、教員と学生の関係、どうしたら楽しく深く学べるのか考えさせられました。
- ・ 理事長の講話、今泉教授の報告は今後の授業運営、学習形態を考える上で大変参考になりました。これから入学してくる高校生を迎える準備、彼らにどのような学修の場を提供するのかが喫緊の課題と考えます。
- ・ 東が丘看護学部について、臨床としっかり連携されており素晴らしいと思った。領域実習のように長期間の実習でもこのような実習が行えとリモート実習の場合でも学びが深められると思う。
- ・ 理事長の講話は、基礎に立ち返り「教育とは何か」という視点を再認識させられる貴重な時間と感じており、オンデマンド職員研修会では削られてしまったことが残念でした。今回久々にお話を伺って大変有意義でした。

2. 今回の語る会において理事長の講話及び各学科からの発表を視聴して、次回以降はどのようなテーマを希望されますか。

- ・ 2040 年に 18 歳人口が激減する中、本学がどう進むべきか、多様性に対応した教育体制はいかなるべきかの意見が聞きたい。
- ・ 各学部での教育に関する課題や工夫を共有できると良い。
- ・ 理事長が考える当学の未来像
- ・ 各キャンパスで取り組まれている遠隔授業の際の著作権の取り扱いについて、お聞かせいただければ幸いです。(例：遠隔授業の際の公衆送信について等)
- ・ 理事長の第三編を楽しみにしています。
- ・ 高大社接続、教育 PLUS—DX
- ・ 臨地実習経験の減少を担保する実践能力の育成とその評価方法
- ・ 理事長の教育に関する講話を希望します。普段の立ち位置と異なる視点から教育に触れることができる点が、看護の枠を外して大学教育を考える機会になります。
- ・ 大学教員の役割のひとつである研究について、他学部の先生方がどのような研究をしておられるのか(テーマの選択、方法、フィールドの選択、共同研究者など)は興味があります。
- ・ 「THCU の教育と卒業生の活躍について」：開学以降多くの卒業生を輩出している。卒業生がどのように社会で活躍しているのか、大学教育がどのような影響を与えたのかを理事長・教員・卒業生の対談として聞いてみたい。
- ・ 理事長の講話を拝聴し、社会が求める本学の位置づけを考えるきっかけとなりました。大学教育に携わる者として大変参考になり、次年度以降も社会全体の動きを捉えた本学の位置づけについてお伺いできれば幸いです。
- ・ 学部学科の各先生の専門性が分かるような話を聞きたいです。

- ・各学科からは、今年度のような素晴らしい教育内容・方法等など引き続き希望します。また大学間で共同研究等については、交流や教育にも繋がり興味があります。
- ・大学の将来像や、教学マネジメントについて
- ・これまで COVID-19 の影響下で、授業の形態も大きく変化した現状を確認しました。COVID-19 が沈静化して以降の授業形態がどのように変化していくかについてお聞きしてみたいと思います。
- ・ICT 活用と DX の方向性について知ることが出来ました。これから進めていく中で省察すべき項目も出てくるかと思しますので、また動画等で知る機会をいただけたらいいなと思います。
- ・令和 6 年より前になるとと思いますが、新カリキュラムに向けて、大学や学部としての方針など、お聞きする機会をいただきたいです。
- ・色々な学部学科の先生のご発表を聞いてみたいです。
- ・DX 時代を踏まえて、本学のホームページをより多くの高校生や市民に閲覧してもらえようとするための提案などを伺いたいと思います。他大学に比べて、検索しにくいことが課題と思っています。
- ・理事長講話の中で「高大接続」の話が出てきたが、それ以前に初等教育と中等教育の接続がうまくいっていない学生を多く見受けることから、アカデミックスキルの教育などについてのお話がきけたらよいと思った。
- ・大学入試改革について（今後の見通しなど）
- ・大学アクションプランにむけた活動の報告会など
- ・看護の現状
- ・今後、どのような生徒が増え、どのような対応が必要になってくるのか、引き続き知りたいです。
- ・また次回も各学科からどんな授業をしているのか聞いてみたい。こんなことをしているという発表だけでなく実際の授業も体験してみたい。
- ・物事に対しての意欲や自己効力感の低い学生が多くなっているように感じています。学生の向上心や気力、意欲を高めるための働きかけ、方策についてのお話を聞いてみたいです。
- ・ロボットプルーフ教育に関心を持ちました。自身でも情報収集したいと思いましたが、情報提供いただける機会があれば嬉しいです。
- ・学びの捉え方が変わってくる学生さんへの「評価」が難しいように感じます。何かお話が聞けたら嬉しいです。
- ・コロナ禍で実践した教育活動等を、コロナ収束後にどう活かしていくか、又はどう活かしたか。
- ・実習方法や内容、授業の工夫点、研究について
- ・発達障害の可能性のある学生への対応方法
- ・様々な特性や心の病などを抱える学生が増えてきている中で、その学生へ対してどのような対応ができるのかをテーマにしていきたいと思います。
- ・教学連携のあり方

- ・現代社会で問題や課題となる最新のトピックについての本学の考え方や目指すべき姿を共有できるテーマを希望します。
- ・大学教職員の働き方改革について。授業形態が変わるにつれて教職員の働き方も変わるはず。
- ・今後の厳しい日本を背負う学生には主体的に学ぶことが重要であるとよく分かりました。そこで、自主性をはぐくむ教員の関わり、教育の実際について希望いたします。
- ・多様性のテーマ、特に障がい者の学び、大学としての対応の在り方などについてお願いいたします。
- ・理事長の講話は、今まで通り将来的に日本・世界がどのような動きになっていくのかのお話しをお願いいたします。とても興味があります。
- ・今回同様にコロナ禍での実習や講義の内容、工夫について聞きたいです。
- ・近年発達している AI や機械学習といった技術を教育にどのように組み込んだ例などを知りたいです。
- ・ポストコロナを見据え、引き続き大学教育の内容を中心に行ってほしい。
- ・教育的な内容が続いている印象もあり、少し全学のスケールメリットや学際性を生かした研究と支援体制などについても、みなさんとお話したいです。
- ・若手教員からの夢のある話を聞きたいです。
- ・学生の教育背景（教育カリキュラム・教育課程）を踏まえた教育・教授方法について
- ・理事長講話では、「大学の学びにけるリベラルアーツの重要性について」を引き続きお願いしたい。（専門科目の重要性ばかりが優先されています）
- ・今後の大学としての DX や総合研究所と各学部の共同について
- ・ICT の活用ももちろんですが、若手研究者への支援も必要であると思いますので、科研費の獲得などについても話してもらいたい。
- ・大学教員として必要な教育学に関するテーマを希望いたします。
- ・AI の理想と現実を知り、教育で AI を活用したり、AI とともに仕事、職業をしていくことを考えていく。
- ・今回の理事長のお話にあったような、これからの学生がどのような教育カリキュラムを経て入学に至っているのか、また今後の社会に必要な学生の育成という観点で、もう少し話をお聞きしたいです。
- ・卒業生との交流に基づく社会活動についてお伺いしたいです。
- ・文明の発展と人間の生きる意味のお話は非常に興味深く拝聴しました。医療を学ぶことの意味、教育、研究の意味を考えると、またそれを学生に伝えていくための本学の指針となるお話を伺いたいと思います。
- ・系列に中学・高校があるので、そちらの教育指導のあり方など、系列校の先生からお話を聞かせていただける機会があると、興味があります。
- ・アクティブ・ラーニングや双方向授業展開等について、実践していることが本当に学生が求めていることなのかを検証したり、学生の学びにどのようにつながっているのかなど具体的に知りたい。

- ・自調自考へ、我々も学生もパラダイムシフトしなければならず、この境界を超えること及びそれを導くことに苦悩することがあります。ベストプラクティスなどがあれば、テーマとして扱ってくだされば、幸いです。
- ・新カリキュラムへの対応や、学科横断的な内容、引き続き ICT の活用について等
- ・理事長には、やはり引き続きリベラルアーツをベースに語っていただきたいと思いました。今回時間切れで話されなかったスライドも気になっています。
- ・日々変わる情勢の中での HOT なテーマにおいて、私たち医療従事者が取り組むべき課題など。
- ・日本語を母国語としない学生受け入れについて（グローバル化に向けた大学運営について）
- ・本行事が本学にとっての SD 活動の一環であるならば、次回は職員に求められる知識、意識、行動など改めて提示した上で、その後一人ひとりの成長に繋がる教育メニューが用意されることが望ましいと思います。
- ・コロナ禍に特化した内容や、大学として SDGs にどのようにかかわっていくかなど、最近の社会状況を踏まえた発表も聞いてみたいです。
- ・理事長から頂戴する、教育に関する歴史的変遷のご講義をいつも楽しみにしています。今後のご講義を頂戴できるとありがたいです。
- ・学生から発表があってもよいのではないのでしょうか。
- ・リモート実習やシミュレーション演習の評価をどのように行われているか、実例を含めてご紹介いただきたい。